株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

週間展望・回顧（ドル、ユーロ、円）

April 18, 2025

ドル円、日米財務相会談に警戒

◆ドル円、日米財務相会談に警戒
◆ドル円、米地区連銀経済報告や 4 月東京都区部 CPI に注目
◆ユーロドル、欧米通商協議や 4 月ユーロ圏製造業・サービス業 PMI 速報値に注目

予想レンジ
ドル円　　139.00-144.00 円
ユーロドル　1.1100-1.1500 ドル

4 月 21 日週の展望

ドル円は、来週予定されている加藤財務相とベッセント米財務長官による日米財務相会談での為替協議に注目する展開となりそうだ。17 日に開催された赤沢経済再生相とベッセント米財務長官、ラトニック米商務長官、グリア通商代表部（USTR）代表との第 1 回日米貿易交渉では、為替に関する議論はなく、赤沢経済再生相は「日米首脳会談で為替はベッセント米財務長官と加藤財務相で議論すると記者会見で明らかにされており、米側はよく理解していると思う」と述べたほか、月内の第 2 回貿易交渉の開催を示唆した。加藤財務相は来週の G20 財務相・中央銀行総裁会議や、IMF・世銀総会でベッセント米財務長官との日米財務相会談に臨む予定となっている。

来週、米国では 23 日に米地区連銀経済報告（ベージュブック）が公表される。5 月 6-7 日の FOMC での追加利下げの可能性を見極めることになる。また、ブラックアウト期間を控えて、複数の FOMC メンバーの講演にも注目しておきたい。パウエル FRB 議長は、トランプ米政権の関税措置がスタグフレーションを引き起こす可能性を指摘し、「明確な状況が判明するまで当面は様子を見る」考えを示しているが、一方で、トランプ米大統領はパウエル FRB 議長に早期の利下げや退任を迫っており、今後の関連報道には警戒しておきたい。日本では、25 日に 4 月東京都区部 CPI が予定されている。4 月全国 CPI の先行指標となっているが、政府の電気・ガス料金の補助金が 3 月で終了したこともあり、注目しておきたい。大幅に上昇していた場合、日銀の早期利上げ観測が高まることから円買い要因となるだろう。植田日銀総裁は、米国の関税政策による不確実性に警戒感を示しつつも、「見通しが実現する確度を点検しながら適切に政策を判断していく」と述べている。

ユーロドルは、難航している欧米通商協議の行方に注目だが、景況感の悪化が懸念される中で、ユーロ圏 4 月の製造業・サービス業 PMI 速報値を見極める展開となるだろう。今週の欧州中央銀行（ECB）理事会声明文でも、「成長見通しは通商の緊張により悪化している」と言及された。

4 月 14 日週の回顧

ドル円は、米中の貿易摩擦や日米貿易交渉への警戒感から 141.62 円まで年初来安値を更新したが、日米貿易交渉で為替に関する議論がなかったことから一時 143.08 円まで買い戻された。ユーロドルは、ユーロ圏の景況感悪化懸念などを受けて 1.1425 ドルから 1.1264 ドルまで下落した。ただ、その後は米長期金利の低下などにつれて下値を切り上げている。なお、ECB 理事会では、市場予想通り 6 会合連続での 0.25%の利下げが決定され、声明文からは「景気抑制的」の文言が削除された。ラガルド ECB 総裁は、「強いユーロはインフレを押し下げる可能性。2%の目標を達成するために必要なことは何でもやる決意」などと述べた。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.